

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般-12

学校名・団体名	群馬大学教育学部附属特別支援学校
HPアドレス	http://shc.edu.gunma-u.ac.jp/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	ヤンチキドッコイショ！ みんながつながる八木節踊り
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校の学校祭で馴染みのある八木節踊りを題材に、身体表現や言語表現をとおして、自ら相手に思いや考えを伝えたり相手に応じたりしようとする児童生徒を育成することと、八木節踊りの取組を家庭や地域に発信していくことで、家庭との連携や地域とのつながりを深めていくことをねらいに、八木節踊りを全校の取組として位置づけ、踊りをとおして学校・家庭・地域がつながりを深めていく契機とする。</p>	

活動テーマ「ヤンチキドッコイショ！ みんながつながる八木節踊り」については、9月より以下のような内容で活動を行った。

時期	内容
<p>9月</p>	<div data-bbox="363 300 732 575" data-label="Image"> </div> <p>○八木節踊りの講師から踊りの歴史やお囃子、振り付けの意味を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の学校祭に毎年参加してくださっている八木節の団体から講師を招き、各地域に出向いて八木節踊りを披露している様子をDVDで鑑賞しながら、八木節の歴史や現在の取組について話を伺った。また、講師の実際のお囃子や振り付けを見たり真似たりして体験した。 ・児童生徒の実態に合わせて、初回は中学部と高等部の生徒が参加した。学校祭で馴染みのある八木節踊りだが、その歴史や八木節団体の取組について知る機会は初めてだったので、どの生徒もよく講師の話聞いていた。また、講師から指導を受けながらお囃子や振り付けを体験することも初めてだったので、八木節を踊る格好を整えることから講師とのかかわりができ、講師に親しみをもつことができた。次回は生徒たちが実際に花輪や楽器を手にして踊ったり演奏にかかわったりすることを伝えると、どの生徒も期待に満ちた表情を浮かべていた。
<p>10月</p>	<div data-bbox="363 1097 732 1373" data-label="Image"> </div> <p>○八木節踊りの講師と一緒に踊りやお囃子の練習をする①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒がそれぞれの振り付けの経験に合わせて、花輪やすげ笠を持ち、講師の指導を受けながらお囃子に合わせて踊った。講師から直接指導をいただいたことで、花輪の振り方、すげ笠の回し方や返し方等を具体的に学ぶことができた。また、同じ道具を持つ友だちと「せーの」と言葉をかけ合って動きを揃え、花輪を体の前に出したり引いたりしたり、お囃子の決まったりリズムのところでは止めることを見よう様子も見られた。
<p>11月</p>	<div data-bbox="363 1494 732 1769" data-label="Image"> </div> <p>○八木節踊りの講師と一緒に踊りやお囃子の練習をする②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・踊りを中心に活動してきたが、徐々にお囃子に興味をもつ児童生徒も多くなってきた。特に、小学部児童の中に、八木節踊りのお囃子の音色を聞きに太鼓に近づいたり、実際に太鼓を叩いてみたいことを講師に伝えたりする児童がみられるようになった。また、この頃から、自分のタイミングやリズムで踊ったりお囃子の楽器を演奏したりすることよりも、上手に踊る友だちや講師の動きを見て、踊りや演奏をしようとする児童生徒の姿が目立つようになった。グループに分かれて踊りを練習し、グループごとにその成果を発表した際にも、友だちの踊りをよく見る児童生が多かった。 ・これまでの取組を受けて、小学部児童の保護者からも八木節踊りの発表にかかる参加依頼があり、小学部から高等部までの有志の児童生徒がそろって、地域でのイベントで八木節踊りを披露することができた。

<p>12月</p>	<p>○八木節踊りの講師と一緒に踊りやお囃子の練習をする③</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・校内の八木節踊りの取組でも、全校の児童生徒が自分の希望を伝えたり講師や友だちからアドバイスをもらったりしながら、踊りの道具やお囃子の楽器を選んで八木節踊りをするようになってきた。 ・初めの頃は見よう見まねで、おぼつかない振り付けだったり自分の思うように楽器を演奏したりしていた児童生徒の様子が、この頃には講師や友だちと動きを合わせる楽しさを感じられるようになってきた。踊りの最後に全員で「ヤンチキドッコイショ」と言葉にしながら振り付けや演奏を止めて終わることができると、自然と拍手がわき起こることもあった。 ・9月からの取組が続く中で、講師への親しみが増し、「親方、また来てください」「八木節をまたやりましょう」と、自分から講師に話しかける児童生徒も多くなった。八木節団体の協力を得て専門的な指導を受けることで、これまで慣れ親しんできた児童生徒たちの踊りが、「上手に踊ろう」「友だちと合わせよう」「もっときれいに見せよう」という気持ちの入った踊りや演奏に変わっていった。
<p>1月</p>	<p>○児童生徒が主体となって、踊りやお囃子の練習をする。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・月末に行われるイベントに向けて、有志の児童生徒が集まって昼休みに練習をする機会があった。これまでの取組の成果として、有志の児童生徒たちは、昼休みの練習を楽しみにして、給食の時間が終わるとすぐに練習場所に向かっていった。そして、振り付けの担当が決まると、次回にはすぐその道具を準備して練習に臨むことができた。振り付けの確認をするときは、左右にいる友だちの動きを見て、振り付けを合わせようとする児童生徒が多く見られた。実際のイベント会場は、大勢の観客が見守る中で、これまでの取組でお世話になった八木節団体とともに出演し、花輪を頭上にしっかり掲げたり、お囃子のリズムに乗って脚を動かしたりすげ笠を返したりしながら楽しそうに自分たちの踊りを披露する児童生徒の姿があった。